

令和6年度 事業報告書

社会福祉法人 荏田町社会福祉協議会

はじめに

平成12年に事業を開始した「多機能型事業所くすの木作業所」は、令和7年3月31日をもって廃止し、おひさまハウスに事業譲渡しました。利用者の皆さまの環境が大きく変わることが心配されましたが、くすの木作業所職員の努力や新たな施設の様々な配慮により、混乱することなく事業譲渡出来た事を有難く思います。これからも、新たな施設での運営が上手く行くよう見守っていきたいと思います。

社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な機関として、住民参加による地域福祉活動の推進に注力しています。特に、令和6年度は孤独や孤立の問題解決に向け、小地域福祉活動推進地区と共に、「支え合い会議」の開催による、困りごとを抱えた方の早期発見に努めました。また、困りごとを抱えた方の問題解決に向けた伴走支援や参加支援等、見守り体制の構築に取り組みました。

福岡県社協のモデル事業「地域共生社会づくりのための市町村社協活動支援事業」では、e-スポーツによるひきこもり支援としての居場所づくりや世代間交流事業を西日本工業大学との連携のもと取り組みました。また、家族支援として、不登校・行き渋り当事者の親の会や発達障害のある当事者の親の会の組織化に向けた取り組みを開始することが出来ました。

権利擁護事業では、日常生活自立支援事業、法人後見事業ともに利用者が増加する中、現在の職員数での受任が厳しい状況が続いています。物価が高騰し続ける中、食糧支援にて対応しておりますが、生活困窮者への支援のあり方が問われています。一方で、相談者からの相談担当職員への暴言等も増えており、カスタマーハラスメント対策の検討を始めました。

ボランティアセンターでは、「お話し相手ボランティア養成講座」を開催し、新たなボランティア団体「お話し相手ボランティアにこにこ」を結成しました。団塊世代が75才の後期高齢者になる中で、困りごとを抱える高齢者が増えていく事が予想されており、孤独や孤立の解消に向け大きな期待が寄せられます。また、生活支援体制整備事業では、男性の居場所づくりにむけた講座を開催しました。講座終了後、「かんだ倶楽部」という名称での男性の居場所づくりが開始されました。緩やかなつながりの場として活動を育んでいきたいと思います。

赤い羽根の共同募金や社協会員増加に向け、社協の取組の見える化を進めました。減少傾向にあります。地域共生社会の実現に向け、社協の取組への共感や理解が広がるよう、より一層努力していく必要性を感じています。

「在処よってけばあ」は利用者が少ない状況が続いていましたが、令和6年度は利用状況が大幅に改善することが出来ました。利用者の増減が激しい状況にありますが、更なる利用者増への取組が必要な状況です。

1 住民福祉活動、ボランティア活動の推進

1. 小地域福祉活動の推進【会計区分：法人運営サービス区分】

【令和6年度推進地区数等実績】

＜推進地区名＞ ※推進地区35地区

雨窪区・若久二区・若久区・松山区・松原区・本町区・中町区・上町区・幸町区・提区・長畑区・浜町区・港区・馬場区・南原区・集区・城南区・尾倉区・近衛ヶ丘区・桜ヶ丘区・与原上区・与原下区・白石区・二崎区・緑ヶ丘区・百合ヶ丘区・新津区・今古賀区・小波瀬区・猪熊区・稲光区・八田山区・谷区・法正寺区・鋤崎区

(1) 見守り活動の推進

① 支え合い会議の開催

	地区名	年月日		地区名	年月日		地区名	年月日
1	雨窪	未実施	13	港	6.11.25	25	緑ヶ丘	6.10.15
2	若久2	6.10.29	14	馬場	6.9.18	26	百合ヶ丘	6.9.20
3	若久	6.7.18	15	南原	未実施	27	新津	6.9.2
4	松山	6.9.5	16	集	6.10.10	28	今古賀	6.9.3
5	松原	6.8.3	17	城南	7.2.9	29	小波瀬	6.10.19
6	西町	未実施	18	尾倉	7.1.11	30	猪熊	7.1.17
7	本町	未実施	19	近衛ヶ丘	未実施	31	稲光	7.3.26
8	中町	6.10.11	20	桜ヶ丘	6.7.12	32	八田山	6.10.23
9	上町	6.10.28	21	与原上	未実施	33	谷	6.10.13
10	幸町	未実施	22	与原下	7.1.17	34	法正寺	未実施
11	提	7.3.28	23	白石	6.6.19	35	鋤崎	未実施
12	浜町	6.11.26	24	二崎	6.10.4			
成 果		26地区で開催。気になる世帯・心配な世帯127世帯を把握し、約50世帯に対し、民生委員や小地域福祉活動と連携して、訪問を行った。						
課 題		未実施地区（9地区）に対しては、既存の会議形式を提案するのではなく、個別で聞き取りを行うなどの工夫が必要。						

②ふれあいいきいきサロンに参加していない世帯への同行訪問

	地区名	年月日		地区名	年月日		地区名	年月日
1	今古賀	6. 7. 30	4	二崎	6. 10. 15	6	百合ヶ丘	7. 3. 26
2	若久	6. 8. 30	5	小波瀬	6. 10. 18			
3	松原	6. 9. 19			7. 2. 3			
成 果		6 地区で開催。小地域福祉活動や民生委員と共に同行訪問を行った。サロンへのお誘いや近況確認など、小地域福祉活動の地道な訪問活動の実態を把握できた。						
課 題		小地域福祉活動が行う、訪問活動に積極的に同行し、地域生活課題の把握に努めていく。						

③定例会にて見守り等に関する相談の受付

取 組	定例会に参加し、地域で心配な方の見守りに関する相談やサロン内容に関する相談を受け付けた。
成 果	新たな見守り対象者の共有や個人を地域で支える仕組みづくりについて考えるきっかけにつながった。
課 題	直接訪問等の見守りが難しくなっている。日常生活で無理のない見守り方法や、そもそも気になる人とはどういった人なのか等、共有する機会が必要。

④見守りの手引きの配布

配布月	6 月 3 日～6 月 2 0 日
冊子内容	・小地域福祉活動の手引き、福祉委員の役割
配布数	3 4 地区 6 5 9 人
成 果	福祉委員の役割についてのチラシを新たに作成し、普段の暮らしの中での気づきをつなぐことなど、改めて福祉委員の役割についての周知を図った。
課 題	心配な方とはどのような方なのか、福祉委員の気づきを社協や相談機関につなげられるようなチラシを作成する必要がある。

(2) ふれあいいきいきサロンの活性化

①各小地域福祉活動へのボッチャの促進

各小地域福祉活動推進地区のふれあいいきいきサロンへ出向き、ボッチャのルール説明など、レクリエーション講座を実施しました。

	年月日	地区名	人数		年月日	地区名	人数
1	6.4.24	百合ヶ丘区	20名	6	6.9.18	若久二区	20名
2	6.6.28	提区	50名	7	6.10.13	谷区	26名
3	6.6.18	猪熊区	20名	8	6.10.25	本町区	20名
4	6.7.1	幸町区	10名	9	6.11.10	八田山区	14名
5	6.7.12	桜ヶ丘区	20名	10	7.2.9	稲光区	18名
成 果		ボッチャがサロン活動に浸透してきた。ボッチャ交流会に向けた練習で呼んでいただけることが多かった。					
課 題		サロンでボッチャをしているが、交流会に参加していない区もあるので、交流会に参加していただけるようにアプローチしていく。					

②出前講座等の実施（通年）

ふれあいいきいきサロンで何をすればいいか役員が悩まなくていいように、出前講座のメニューを提案しました。

	年月日	地区名	参加者数	内容
1	6.4.13	小波瀬区	55名	小地域福祉活動の在り方について
2	6.4.20	松原区	30名	認知症について
3	6.5.25	近衛ヶ丘区	20名	脳寿命を延ばす
4	6.6.9	南原区	40名	災害支援について
5	6.6.21	緑ヶ丘区	30名	脳寿命を延ばす
6	6.6.26	稲光区	20名	認知症について
7	6.7.12	松原区	30名	口腔ケアについて
8	6.9.25	百合ヶ丘区	20名	災害支援について
9	6.10.11	桜ヶ丘区	20名	脳寿命を延ばす
10	6.10.23	八田山区	18名	口腔ケアについて
11	6.2.12	今古賀区	30名	ひとにやさしい住まいづくりのポイント
12	7.3.28	提区	50名	人とのつながりや支え合いについて
成 果		サロンで呼べる出前講座のメニュー「サロンのミカタ」を各小地域へ配布し、コーディネートを行った。		
課 題		出前講座のメニューを地域のニーズに基づいて増やす。		

③世代間交流の促進

e - スポーツや季節の行事等により世代間交流を促進しました。

	年月日	地区名	参加者数	内容
1	6.7.29～6.8.9	松原区	約 400 名	ラジオ体操
2	6.11.21	集区	20 名	e スポーツ指導
3	6.12.21	集区	40 名	e スポーツ指導
4	7.3.9	城南区	50 名	e スポーツ指導
5	7.3.16	近衛ヶ丘区	12 名	e スポーツ指導
6	7.3.23	谷区	32 名	e スポーツ指導
成 果		太鼓ゲーム・ボーリングができる、e スポーツを新たに導入し、4 地区が実施した。		
課 題		情報が行政区によって差異がある。周知方法の再検討。		

(3) 小地域福祉活動対抗ポッチャ交流会の開催

各小地域福祉活動推進地区のふれあいいきいきサロンで実施している、ポッチャの区対抗の交流会を行い、活動者やサロン参加者の健康づくりやモチベーションアップにつなげました。

年月日	場所	参加者数	参加地区名
6.8.6	パンジープラザ 集団検診指導 室・大研修室	250 名	18 地区 (若久区・松原区・本町区・中町・幸町区・港区・馬場区・南原区・集区・城南区・近衛ヶ丘区・桜ヶ丘区・与原下区・白石区・緑ヶ丘区・新津区・小波瀬区・猪熊区)
成 果	職員が各地区へポッチャの指導に行くなど、各地区へ積極的に促進することで、昨年よりもエントリーする地区が増加した。夏休みボランティア講座の最終日と一緒に開催することで、子ども・ろう者のチームも編成し、各地区との交流も見られた。		
課 題	老人クラブのポッチャ交流会と開催月が重なってしまったため、日程調整を慎重に行う。		

(4) 未実施地区へのアプローチ (6月～)

フレイル学習会の開催を提案し、社会参加の大切さの理解を図りました。

	地区名	アプローチ	立ち上げに関する状況
1	長畑	6.5～11	立ち上げアプローチについては、5月から開始し、11月にサロンを1回実施。
2	のぞみヶ丘	6.7.31	区の集会所がない中で、どのようにサロン等を開催していくかが課題。
3	与原上	6.11～	小地域福祉活動再開に向けて新たな担い手や区長代理と相談を実施。令和7年1月より活動再開の運びとなる。
4	美波台	6.7.31	区の集会所がない中で、どのようにサロン等、活動を進めていくかが課題。
5	白石3	6.7.23	区の集会所がない中でどのようにサロン等、活動を進めていくかが課題。
6	木ノ元	6.7.30	フレイル予防学習会の提案
7	浄土院	6.7.30	フレイル予防学習会の提案
8	片島	6.7.30	フレイル予防学習会の提案
9	岡崎	6.7.30	フレイル予防学習会の提案
10	葛川	6.12.12～	区長と相談し、次年度再開の動きを図っていただける話をいただく。
11	稲光上	6.7.17 7.1.25	フレイル予防学習会やeスポーツを活用したつながり作りを区長や民生委員に提案
12	等覚寺	6.7.17	フレイル予防学習会を区長に提案
13	黒添	6.11.24	敬老会の実施。皆が集まることの有用性を実感していただける。直ぐには難しいが、次年度も敬老会やクリスマス会等、集まる機会を創出していく流れとなる。
成 果		新規立ち上げ1地区。未実施地区の区長との関係づくり意識し、小地域福祉活動の立ち上げの提案を行った。	
課 題		集会所がない地区への小地域立ち上げアプローチが困難。未実施地区は、区長が変わる周期が早く、継続的に関係をつくっていくのが難しい。	

(5) 研修会等の開催

①ブロック別会長会議の開催

見守り活動やふれあいいきいきサロンのあり方を協議しました。

【北ブロック】

年月日	会場	内容
6.6.18	パンジープラザ 大研修室	・小地域福祉活動について ・令和6年度の方針について ・グループに分かれての情報交換
参加 地区名	雨窪・若久二・松原・松山・西町・中町・上町・本町・幸町・ 堤・浜町・馬場・港	
成 果	次に役員になる方がいないなど、人材に関する課題がある中で、地域に関わる様になったきっかけについての情報交換を行った。現在、会長をされている方や中心で関わっている方も地域に初めて携わる様になったきっかけは、サロンへの参加という方が多かった。おそらく、小地域に主体的に関わる前から地域とつながっている・地域の人を知っているなどがあったのではないかと感じる。	
課 題	若い世代はじめ、様々な方が地域で関わる機会をどのように増やしていくかが重要になってくるのではと感じる。	

【中央ブロック】

年月日	会場	内容
6.6.17	小波瀬コミュニティセンター	・小地域福祉活動について ・令和6年度の方針について ・グループに分かれての情報交換
参加 地区名	南原・集・城南・尾倉・近衛ヶ丘・桜ヶ丘・与原下・桜ヶ丘・ 白石・新津・緑ヶ丘・今古賀・小波瀬・百合ヶ丘	
成 果	地域へ関わる様になったきっかけでは、人からの声かけで小地域に関わる様になったという方が多かった。声かけされる前から、その方と知り合いだったというケースが多いのではと感じる。	
課 題	地域の活動は知らなくても、地域の人を知っているという方もおり、人と人とのつながりが、地域活動の持続の一助になっている。働いていても、小地域や地域の活動に少し関わる・理解してもらうことが重要だと感じる。	

【南ブロック】

年月日	会場	内容
6.6.17	西部公民館 学習室	・小地域福祉活動について ・令和6年度の方針について ・グループに分かれての情報交換
参加 地区名	猪熊・谷・稲光	
成 果	参加地域こそ少なかったが、会長よりそれぞれ本音を聞くことができた。	
課 題	小地域福祉活動の会長として見守りやサロンを実施することにやりがいを感じていないとの発言もあるなど、モチベーションアップにつながるような支援や関わりが必要と感じる。	

②懇談会の開催

各小地域福祉活動推進地区で懇談会を開催し、活動推進のための情報交換を通じ、地区やリーダーの支援をしました。

	地区名	年月日		地区名	年月日		地区名	年月日
1	雨窪	未実施	13	港	6.11.25	25	緑ヶ丘	7.2.8
2	若久2	7.2.3	14	馬場	7.1.15	26	百合ヶ丘	7.1.22
3	若久	7.2.20	15	南原	未実施	27	新津	6.12.16
4	松山	7.2.6	16	集	7.2.13	28	今古賀	7.2.12
5	松原	7.3.12	17	城南	7.2.9	29	小波瀬	7.2.15
6	西町	未実施	18	尾倉	7.1.11	30	猪熊	7.1.17
7	本町	未実施	19	近衛ヶ丘	未実施	31	稲光	7.3.26
8	中町	7.2.10	20	桜ヶ丘	7.1.20	32	八田山	6.10.23
9	上町	7.1.8	21	与原上	未実施	33	谷	7.3.23
10	幸町	未実施	22	与原下	7.1.17	34	法正寺	未実施
11	提	未実施	23	白石	7.1.15	35	鋤崎	未実施
12	浜町	6.11.26	24	二崎	未実施			
成 果		支え合い会議と別で開催することで、一年の振り返りや今後の活動について協議する時間を充分とることができた。地区によっては、支え合い会議と一緒に開催して欲しいという要望もあった。各小学校区の交通データを基に、区民の交通事情や運転免許返納後の生活を考えるきっかけとなった。						
課 題		未実施地区については、サロン終了後に時間をいただき、会長と個別でお話する時間を設けるなど、従来の会議形式以外の開催方法で開催を検討していく。						

③連絡会の開催

今後の小地域福祉活動の在り方について情報交換を行いました。

年月日	会場	内容
7.2.25	パシフィックプラザ 集団健診指導室	・令和7年度小地域福祉活動の方針について ・各種書類記入について ・eスポーツについて
参加 地区名	雨窪区・若久二区・若久区・松山区・松原区・本町区・中町区・幸町区・提区・浜町区・港区・馬場区・集区・城南区・尾倉区・近衛ヶ丘区・桜ヶ丘区・与原下区・白石区・百合ヶ丘区・新津区・小波瀬区・猪熊区・稲光区・八田山区・谷区（計26地区）	
成 果	令和7年度の小地域の方針の説明やeスポーツを実演し、来年度のサロンに取り入れていただけるようアプローチを行えた。	
課 題	年度の方針に沿った活動をしていただけるよう、推進地区へ個別にアプローチしていく必要がある。	

2. ボランティアセンター活動の推進【会計区分：ボランティアセンターサービス区分】

活動内容別 ボランティアコーディネート件数

活動内容別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設支援	件数	7	8	9	10	9	12	9	9	8	8	8	7	101
	人数	19	26	25	34	24	41	25	24	14	21	22	23	298
団体支援	件数	1	2	3	4	1	5	1	3	4	0	4	3	31
	人数	2	4	5	16	3	10	2	11	8	0	12	6	79
地域支援	件数	1	2	0	0	2	1	0	1	0	0	1	0	7
	人数	5	2	0	0	8	1	0	5	0	0	2	0	23
個人支援	件数	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	6
	人数	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	5
計	件数	10	12	13	14	12	20	10	15	12	8	8	10	149
	人数	27	32	31	50	35	54	27	41	22	21	36	29	405

(1) 新規ボランティアグループの組織化

①お話し相手ボランティア養成講座の開催とグループ化

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
7.1.20 ～ 7.2.10	パンジープラザ 大研修室	9名	講師：NPO 法人 FFA フォロワーシップ 協会 代表理事 福嶋健司氏 内容：傾聴についての基礎知識
成 果	傾聴の知識を深めながら実技を通して学んだため、受講者同士も仲を深めていくことができた。講座終了後に受講者5名で「お話し相手にここにこ」を結成した。		
課 題	年度当初、DIY ボランティア養成講座の開催を予定するも、既に対応している任意団体があるため実施を見送り、お話し相手ボランティア養成講座に急遽変更した。		

(2) 既存のボランティアグループへの支援

①既存のボランティアグループの紹介冊子の作成

配布月	冊子内容	配布先
6.7.5～ 7.3.31	ボランティア団体の紹介、 ボランティアの流れ	各ボランティア団体、民生委員・ 児童委員、来館者
成 果	ボランティア団体やボランティア活動の流れについて、わかりやすく伝える冊子ができた。	
課 題	冊子の完成が7月であったため、小地域福祉活動の推進員向けの配布が間に合わなかった。	

②既存のボランティアグループを紹介する講座の開催

【※1 福祉入門教室として開催】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.7.5	パンジープラザ 大研修室	23人	・ボランティア活動の流れの説明 ・既存のボランティア団体より団体紹介
成 果	これからボランティアを行ってみたい方2名は、既存団体の見学へ繋がった。既存の団体からの参加者は、ボランティア活動をしていてよかったところなどを発表しあったことで、自分自身もこれからはがんばろうとモチベーションが上がったとの感想が聞かれた。		
課 題	ボランティア活動に興味がある方への周知。		

③セラピューティックケアボランティア養成講座の開催

【お試し体験】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6. 8. 26	パシフィックプラザ 健康教室(洋室)	7 人	講師：日本セラピューティック・ケア協会 村田美穂氏 内容：セラピューティック・ケアについて 実技体験

【入門講座】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6. 12. 12	パシフィックプラザ 健康教室(洋室)	7 人	講師：日本セラピューティック・ケア協会 村田美穂氏 内容：セラピューティック・ケアについて 実技習得
成 果	5年ぶりの講座開催であったため、お試し講座、入門講座共に7名参加と講座としてのニーズはあったと思われる。 お試し講座から5名が入門講座も受講したため、セラピューティック・ケアの手の温もりや楽しさは感じていただけた。 その後セラピスト・コースを受講したいという参加者がいた。		
課 題	個人のスキル獲得を目的としており、受講後ボランティア団体加入へは繋がらなかったこと。		

④ボランティアフォローアップ講座の開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
7. 2. 25	パシフィックプラザ 大研修室・ 集団健診指導室	20 名	・ボランティア団体の登録について ・講義「傾聴は奥が深い」 NPO 法人 FFA フォロワーシップ 協会 代表理事 福嶋健司氏
成 果	講義については、ボランティアや地域活動時に必要な傾聴についての内容であったため、わかりやすいと感じる方と難しいと感じる方とに分かれた。		
課 題	近い時期に社協の講演会等も開催され負担感があることから、開催方法と開催時期を検討する必要がある。		

(3) ボランティアセンターの体制強化

① 困りごとや活動希望のニーズが集まるようセンター窓口の周知

取 組	社協窓口にはボランティアセンターの掲示をした。(7月)
成 果	ボランティアセンターということが視覚的にわかるようになった。
課 題	広く窓口の周知まではできていない。

② チョボラ等、ボランティア活動先の確保

取 組	京都医師会看護高等専修学校から相談があり、学生の活動先として白川園と繋いだ。
成 果	学校と町内の福祉施設が繋がった。学校から来年度についてもボランティア活動の希望が聞かれた。
課 題	ボランティアの活動先確保は十分にできていないため、今後も活動先確保に向けて検討、研究が必要。

③ ボランティアに関する情報発信の強化

取 組	毎月社協だよりでボランティアセンターだよりを発行。
成 果	各講座はボランティアセンターだよりを見て申込が入った。
課 題	社協だより以外での情報発信。

(4) 小学生・高校生向けの体験講座の開催

① 高校生ボランティア講座【高校生対象】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.8.2 ～ 6.8.6	パシフィックプラザ 大研修室	6名	京築きょうだい児の会れんげ想との懇談会 小学生のサポートボランティア (6.8.5～8.6)

② 夏休み子どもボランティア体験講座【小学生・高校生対象】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.8.5	パシフィックプラザ 大研修室	10人	講師：ろう者 高橋氏・境氏 内容：手話について学ぶ (手話の表現方法、手話単語、簡単な挨拶の実技、自分の名前を表現する)

6.8.6	ハンジープラザ 大研修室	10 人	講師：ろう者 高橋氏・境氏 内容：手話についてまとめ新聞を作成・ グループごとに発表 小地域対抗ボッチャ交流会への参加
成 果	子どもたちの手話の覚えが早く、手話への理解に繋がった。 まとめ新聞発表の時は自分の名前と共に新聞の内容まで手話 で発表するグループもあり、子どもたちの手話についての知識 や理解が深まった。		
課 題	子どもたちの集中力継続に配慮した行程の作成。		

(5) 親子向けボランティア体験講座の開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.10.6	ハンジープラザ 神幸祭会場	0	赤い羽根共同募金の使い道について、ボランティア体験として神幸祭 会場での街頭募金の実施
成 果	赤い羽根共同募金の周知や理解を広げるためにテーマ設定を 行った。		
課 題	参加申込者が0人であったため実施に至らなかった。社協が伝 えたい福祉テーマだけではなく、子どもと保護者が知りたい福 祉のテーマを考慮してテーマ設定することが必要。		

(6) 企業・団体ボランティア登録制度の促進

取 組	来所した企業等に対してチラシを配布し案内を行った。
成 果	令和6年度の新規登録団体はなかった。
課 題	登録制度の周知、登録団体との連携。

(7) 通常のボランティアセンターでの被災時支援の対応準備

取 組	被災時のボランティアセンターを機能させるため、通常のボラ ンティアセンターでの需給調整を日常的に丁寧に行う。
成 果	通常のボランティアセンターに寄せられる困りごとに耳を傾 け対応した。被災時の災害ボランティアセンターは、この繰り返 しをどれだけ丁寧に被災者に向き合い活動をつくっていき るかが大事であり、今後も平時からの実践を積み上げる。
課 題	被災時はボランティアセンターに相談することの周知。

3.当事者中心の地域づくり【会計区分：法人運営サービス区分】

(1) 介護者の会づくりに向けた学習会及び組織化

【学習会の開催及び組織化】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
7.3.10 7.3.17	パソジープラザ 大研修室	9名（うち当事者2名）	ボディメカニクス、福祉用具、食事介助、入浴・着脱介助の講座を実施。
成 果	北九州リハビリテーション学院の学生及び株式会社クローバー様の協力もあり、実際に模した講座や体験を行うことができる。また、交流機会も多く設定し、参加者同士や学生と楽しく交流を図る機会にもなる。		
課 題	組織化を希望して参加された方もおり、その方を中心に組織化を図る動きを展開していく。		

(2) 既存の当事者グループへの重点的な支援

①障害者団体連絡会への支援

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.7.22	パソジープラザ	8名	定例会①
6.8.20	パソジープラザ	6名	定例会②
6.9.10	パソジープラザ	9名	定例会③
6.11.7	三原文化会館	23名	町長・行政との懇談会
6.11.13	中央公民館	2名	社会福祉大会での啓発活動
6.11.20	パソジープラザ	6名	定例会④
6.12.2	荏田町内	5名	建設課と道路の現地調査
6.12.7	総合体育館	129名	スポーツレクリエーション祭
7.2.12	パソジープラザ	9名	定例会⑤
成 果	スポーツレクリエーション祭を5年ぶりに開催することができた。町長・関係課との懇談会で上げた、道路の危険箇所2か所の要望（歩道と車道の境界に横断防止柵がなく、歩行中に転倒する恐れがある箇所・歩道の段差の解消）について、障害者団体連絡会と建設課と現場の視察を行い、横断防止柵を設置して頂けることとなった。		
課 題	スポーツレクリエーション祭を団体の方々が役割をもって運営できるようにする。		

②きょうだい会への支援

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.5.19	パソジープラザ	5名	定例会①
6.7.21	パソジープラザ	5名	定例会②
6.7.26	中央公民館	350名	きょうだい会についてのチラシ配布
6.8.2	パソジープラザ ボランティア室	11名	きょうだい会と高校生夏休みボランティア講座受講生との懇談会
6.9.1	パソジープラザ	5名	定例会③
6.11.17	パソジープラザ	4名	定例会④
7.1.19	パソジープラザ	5名	定例会⑤
7.3.16	パソジープラザ	5名	定例会⑥
成 果	会員増を目指し、きょうだい会のチラシやポスターをメンバーと共に作成し、研修会等で配布した。		
課 題	新たな啓発のツールや啓発の機会を作っていく必要がある。		

(3) 個別支援を通じた地域づくり

①外国人支援の促進

取 組	取り組みなし。相談があれば対応している。
成 果	1件の相談あり。対応を協議中。
課 題	町内に住む外国人の方々がどのような困りごと抱えているかを把握する必要がある。

②障害のある方の社会参加促進

取 組	荇田小学校区つながり隊にて、買い物支援や居場所づくりの取り組みへのボランティア活動に障害のある方が参加するための支援を行った。また、精神障害のある方からの相談についても丁寧に支援を行った。
成 果	精神障害のある方に対し、訪問や電話などで寄り添って支援していく中で、ボランティア団体への登録や軽作業を提案し、社会とつながり続ける支援を行った。また、就労に向け、履歴書作成などの支援も行った。
課 題	障害のある方が継続的に社会とつながり続けられるよう、本人への支援を行うとともに、周囲の方々に対しても理解を促していく。

2 地域における総合的な権利擁護支援体制の整備

1. 権利擁護（日常生活自立支援事業・法人後見事業）に関する取組みの充実 【会計区分：あんしんセンターサービス区分】

（１）制度についての相談を行います

①日常生活自立支援事業 実績

	令和年 6 度	令和 5 年度
契約者数	13 人	16 人

新 規 契 約 者 数						援助 回数	相談・ 問合せ
	認知症	知的障害	精神障害	その他	合 計	326	14
件数	5	0	1	0	6		
解 約 者 数							
	認知症	知的障害	精神障害	その他	合計		
件数	4	0	3	2	9		

契 約 者 数					
	認知症	知的障害	精神障害	その他	合計
件数	7	2	2	2	13

日常生活自立支援事業から法人後見事業への移行件数	3 件
--------------------------	-----

成 果	日常生活自立支援事業の相談経緯は、包括や病院、施設から直接連絡があるだけでなく、月 1 回開催の社協包括連絡会の中での相談、虐待案件のコアメンバー会議（1 件）での相談等ある。 契約者数としては昨年度より少ないが、成年後見のつなぎ利用が多く、すぐに契約・解約を行なったり、精神障害のある方が自由さを求めて解約に至る案件もあつたりしたことを踏まえると、業務としては昨年度より増えている。
課 題	今後も相談、面談等行ない、本人の意向に基づいた支援、必要に応じて提案する等の対応を行っていく。

②法人後見事業

	令和6年度	令和5年度
契約者数	16 人	12 人

新規受任数					相談・問合せ
	成年後見	保佐	補助	合計	32
件数	4	1	0	5	
解任(終結)数					
	成年後見	保佐	補助	合計	
件数	1	0	0	1	

契約者数				
	成年後見	保佐	補助	合計
件数	12	4	0	16

成果	契約者数 19 人、新規受任 5 人。首長申立て案件が続き、それに伴い中核機関からの要請で年間通して 5 回受任調整会議に参加した。
課題	制度利用が進む事は住民への事業理解につながるが、一方で社協の法人後見を含め、後見人不足は地域課題として続いている。

(2) 権利擁護に関する研修会の開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.11.27	パンジープラザ 大研修室	7 名	シニア向けマネーセミナー 一般社団法人グリーンワークス FP 円縁 倉掛 彩子氏
成果	相続税やデジタル遺産等、現実問題に即した内容であり、参加者は自分らしいエンディングをイメージする事ができた。		
課題	テーマが高年齢向けとなりがちであるため、現役世代も我が事と捉えられるような内容を検討する。		

(3) 成年後見等運営委員会を開催しました。

年月日	出席者数	主な議題
6.7.10	10名	新規受任者の支援内容（質）と件数について
7.2.5	※大雪のため中止	
成 果	受任調整会議での新規案件に対して早急に審議を進める必要があり、運営委員へメール審議期間の確保のため、中核機関や役場に案件の情報を早めに取り集めるよう努めた。	
課 題	複雑な相続問題や疎遠な家族との関係など現在社会の課題が業務内容となるため、事務処理などはできるだけ簡略化していく。	

(4) 社協包括連絡会を毎月開催しました。

取組内容	・月1回、社協包括連絡会を開催。 ・出席者：各地域包括支援センター、荻田町役場福祉課、荻田町社協あんしんセンター係。オブザーバーとして成年後見センター。 ・内 容：情報共有、支援方針の検討。
成 果	日常生活自立支援事業だけでなく、成年後見センターが参加しているため、後見申立のタイミングについても検討を行っている。今後も情報共有を行い、支援方針、役割、改善効果等確認しながら協議していく。
課 題	長期にわたり、支援を行うも本人が支援にのらないため、進めない案件や新規で支援方針を検討する案件が多い。特に今年度は生活保護受給者の案件が多く、ケースワーカーからの相談ではなく、かなり支援が困難になってから他関係機関の紹介で包括が関わるケースがあり、本人の意向や支援者としてどこまで関われるのかを含め、専門性の高い協議の場となっている。

2. 障害者相談支援事業の充実

【会計区分：障害者サービス利用計画作成事業サービス区分】

（１）適切なサービス利用計画の作成をします

	令和 6 年度	令和 5 年度
登録人数	94	93
新規人数	12	12
解約人数	11	12
成 果	介護保険移行やサービス利用中止等で解約となった方もいるが、新たにサービスを希望する方も多く、登録人数に大きな変動はない。	
課 題	精神疾患のある方の依頼が多くなっており、相談者の特性に合った事業所探しが困難。	

（２）苅田町障害者相談支援事業の受託を継続して行います

・一般相談を行いました

	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数	24	17
成 果	担当の相談員だけでなく行政を巻き込んで一緒に取り組むケースが多くなっている。困ったときなど必要に応じて担当者間でケース会議を開き、対応の仕方を共有している。	
課 題	他機関で取り組んでも解決できない困難ケースがある。	

・京都郡自立支援協議会へ参加します

取 組	月 1 回の幹事会、隔月の相談支援部会、年 2 回の全体会に参加した。
成 果	幹事会、全体会では幹事長として基幹相談支援センターの設置に向けて行橋市、飯塚圏域の取組みを共有した。
課 題	基幹相談支援センター設置に向けての進捗状況の周知と相談支援部会の開催の在り方の見直しについての検討。

3. 相談窓口の充実【会計区分：共同募金配分金サービス】

悩みごとや心配ごと等を抱える方が、気軽に相談しやすい相談会になるよう検討していきます。

（１）立ち寄りカフェ（心配ごと相談）を開催しました

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	6

（２）身体障害者心配ごと相談を開催しました

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2

（３）無料法律相談を開催しました

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	5	6	6	6	6	5	5	6	6	6	6	6	69

（４）相続・成年後見等相談を年に４回開催しました

月	4	7	10	1	計
件数	3	0	5	1	9

（５）終活相談を年に４回開催しました

月	5	8	11	2	計
件数	3	1	1	1	6

（６）出張相談を開催しました

取 組	葛川区公民館でアウトリーチによる心配ごと相談（立ち寄りカフェ）を試験的に開催。出向いての相談会は効果があるのかを検証した。
成 果	「立ち寄りカフェ IN 葛川区公民館」に来られた方が８名（延べ人数１０名）おられ、一定の効果があると感じた。 小地域のサロンを再開して欲しいと来られた方もおられた。
課 題	・相談者が集いやすい場所（公民館等）の確保 ・相談者の目につきやすいPR方法（広報誌やチラシ等）

3 包括支援体制・生活支援システムの整備・強化

1. 地域の基盤づくりの推進【会計区分：法人運営サービス】

(1) 地域福祉を推進する活動団体への支援の強化

地域福祉を推進する活動が衰退することのないよう、職員による伴走力を高め持続可能な地域社会づくりを目指しました。

取 組	ミーティング等で常に職員が地域に出て、活動への参加や活動者とのコミュニケーションを大切にする意識の共有を図った。
成 果	職員が積極的に地域活動に参加し、関係づくりに努めたことで、活動する上での困りごとの相談を受ける機会が増えた。
課 題	地域福祉推進団体がいかに地域にとって大切なものかが、地域や専門機関に共通理解が図れるような働きかけの促進。

(2) 他人事ではなく我が事と考える地域づくりの推進（地域福祉係）

地域における交流や居場所づくりを推進し、役割・出番・人間関係をつくる支援を心がけました。

取 組	主に、支え合い会議で潜在化した気になる方の中から、特に気になる方への支援方法について、住民を交え検討する機会を増やすよう取り組みました。
成 果	地域の方と共に対応を考え支援を展開することで、地域の福祉力の向上や我が事として考える地域づくりが進められました。
課 題	一人一人の困りごとに寄り添い、地域の皆さまと共に今後も何が出来ていくかの検討を重ねていく。

2. 地域生活課題の把握や総合相談の推進【会計区分：法人運営サービス区分】

(1) アウトリーチによる相談受付

地域に積極的に出向き、地域住民の中に混ざり雑談等をする中から、自分一人で抱え込んでしまっている相談等を受けとめていきました。また、地域の関係者との連携による地域生活課題の早期把握に努めました。

校区名	相談・支援件数	校区名	相談・支援件数
荏田小学校区	3人・7回	馬場小学校区	1人・5回
南原小学校区	4人・26回	与原小学校区	5人・18回
片島小学校区	2人・2回	白川小学校区	3人・10回
成 果	困りごとの相談は本人よりも、区長・民生委員等の関係者からの相談の方が多い。社協にちょっと相談してみようという形が増え始めた。		
課 題	介護保険の申請や精神障害のある方からの相談、一人暮らしの高齢者の見守りについてなど、相談内容は多岐に渡っているので、今後他機関と連携・協働することで問題解決を図れるよう注力しなければならない。		

(2) 地域支援検討会議の開催

個別支援の事例検討を通じて、支援や連携のあり方を学ぶと共に、地域生活課題の顕在化や活動の創造を検討しました。

取 組	2ヶ月に1回事例検討会を各部署持ち回りで行った。
成 果	制度に繋げるにはどうしたらよいか、社協事業で対応ができないか等、部署間の隔たりなく検討する場が出来ている。
課 題	個別支援から地域支援

(3) 社協職員のソーシャルワーク力の強化

地域生活課題に気づく力、援助関係を築く力、社会資源を活用する力、社会資源を生み出す力、皆と協働する力を高めました。

取 組	相談を持ち掛けてもらいやすい雰囲気づくりに努め、持ち掛けられた相談には真摯に向き合うよう努力した。
成 果	個別支援から地域支援を意識し、地域生活課題への対応に注力した結果、ソーシャルワーク力の一定の向上を図れた。
課 題	社会資源の把握や生み出す力には課題が残る。

3. 専門職のネットワークづくり【会計区分：法人運営サービス区分】

(1) 社会福祉法人連絡会の推進（地域福祉係・あんしんセンター係）

① 地域における公益的な取り組みとして、フードドライブ等の実施

取 組 内 容	総会の実施（年 1 回）・幹事会の実施（年 4 回） 各法人でフードドライブの実施（11 月） 法人連絡会主催の施設見学バスツアーの開催（11 月）
成 果	社会福祉法人連絡会としては初めての協働した取り組みとして、施設見学バスツアーを開催。定員を超える参加者があるなど、ニーズの高さが伺える。各法人が協力し合って行えたことは非常に大きく感じる。
課 題	今後、継続した課題である「人材確保」、「公益的な取り組み」を継続して話し合い、さらに連絡会でできることを話し合っていく。

② 総会・幹事会の開催

取 組 内 容	令和 6 年 6 月 7 日（金） 第 1 部 特別講演「健康経営について」 講師：アクサ生命保険株式会社 藤井様 第 2 部 荏田町社会福祉法人連絡会 総会 議題：令和 5 年度事業報告及び決算報告について 令和 6 年度事業計画(案)及び予算(案)について
成 果	前年度に話し合った各法人の抱える共通の課題として上がった、「人材確保」について話し合っていく為の機運が高まる。
課 題	総会の際、全体的に発言が少なく、形式的になっている。

③ 社会福祉法人の住民への理解促進

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.11.13	パシフィックプラザ/白川園 特養あじさい	14 名	施設見学会の実施
成 果	参加者は実際に就職を検討している方、将来に備えて施設の内情を知っておきたい方など大きく目的は 2 分化していたが、共に交流を図りながら非常に好評をいただく。参加者には社会福祉法人連絡会についても説明をし、理解促進にもつながる。		
課 題	参加者が 10 代から 80 代までと幅広く、統一した説明が難しかった。次年度以降も継続したいとの意見が多くでており、今後の開催に向けた協議や相談が必要。		

(2) ヘルパー事業所連絡会の組織化（地域福祉係）

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
7.3.12	パンジープラザ 福祉団体室	5名	・人材不足とヘルパーの高齢化について ・新規利用者が受入れ困難について ・ハラスメント対策について
成 果	ヘルパー事業所の現状、高齢化・ヘルパー不足について把握することができた。		
課 題	連絡会の立ち上げには至らなかったが、定期的な情報交換を通じて、社協としてできることを模索していく。		

4. 生活支援体制整備事業の推進

【会計区分：生活支援体制整備事業サービス区分】

(1) 第1層つながり隊（協議体）の開催

関係者の連携・協働を図る為、協議体を設置し、地域における支え合いが広がるよう協議を進めました。

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.5.27	荻田町役場 401 会議室	21 名	・持続可能な地域活動の実現に向けて ・地域デビューや団体の課題について
6.12.24	パンジープラザ 大研修室	20 名	・持続可能な地域活動の実現に向けてについて協議
成 果	各団体が抱える担い手不足の課題を荻田町全体の地域課題として、メンバーの皆さんと共有することができた。		
課 題	荻田町全体の課題として考えるテーマ設定と協議の意図を第1層つながり隊のメンバーに理解していただくことが今後の課題となる。		

(2) 第2層つながり隊（協議体）への支援

住民主体の活動となるよう支援しました。

取 組	定例会への参加とイベント等への参加、活動の周知や報告
成 果	各つながり隊の活動報告による情報提供を行い、交流会や学習会など他団体の活動を参考にした取り組みを行うことができた。
課 題	活動報告の配布を通じたつながり隊活動の周知を行っていくことが課題となる。

(3) ベース会議やＳＣミーティングの開催

事業の進め方について、包括支援センター、福祉課、社協の目線を合わせ、合意形成を図りながら進めました。

取 組	5 月、10 月、1 月、3 月の 4 回ベース会議を実施した。 毎月全 12 回 ＳＣミーティングを実施した。
成 果	協議体の進捗報告や進め方など合意形成を図りながら協議することができた。
課 題	出席者それぞれが考える地域の困りごとや課題についての協議や議論を活発に行うための仕掛けが必要。

(4) ニーズの把握と資源の見える化の推進

地域ケア会議や小地域福祉活動に参加しニーズ把握に努めます。また、地域資源の把握として各団体の等の情報を共有し、見える化を進めた。

	具体的内容
ニーズの把握	年 10 回の地域ケア会議、地域ケア推進会議への出席 小地域福祉活動への参加、つながり隊活動への参加
資源の見える化	社協だよりでの集いの場の掲載と輝く荇田人の掲載、つながり隊活動報告の発信。
成 果	多様化する地域のニーズに対応するため、さらなる地域資源の把握の必要性を実感した。
課 題	地域資源の把握や人材の把握のためのアウトリーチを今後どう進めていくかということが課題となる。

(5) 支え合い意識の啓発

① 支え合い冊子の作成

内 容	支え合いのまちづくり みんなで支え合う荇田町へ 発行 第 1 層、第 2 層つながり隊の活動と男性の居場所づくり
配布先	小地域福祉活動推進地区、民生委員・児童委員、つながり隊、荇田町支え合い住民フォーラム参加者、福祉事業所など
成 果	荇田町で取り組まれている支え合いの活動について多くの町民に周知することができた。
課 題	冊子の編集や作成など他自治体の取り組みなどを参考にしながら実施すること。

②SNS・社協だよりによる活動情報の発信（参加した活動すべて SNS 発信）

取 組	社協だより（つながり隊通信）による活動報告、イベント周知 Instagramによる活動報告、イベント周知
成 果	Instagramにおいてはフォロワー数 573 人と増加しており、町外の方にも活動を知っていただく機会ができています。
課 題	写真の掲載許可など著作権や肖像権に関わる部分についてが今後の課題となる。

③住民支え合いフォーラムの開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
7.3.22	パシフィックプラザ 大研修室	120名	基調講演 「互近助の力、今私たちにできること」 講師 新崎国広氏
成 果	講師の新崎氏に対する評価はとてもよく、参加した皆さんの心に響く内容であった。		
課 題	開催時期の設定や会場選定など参加しやすさを考慮した形での開催について検討が必要である。		

（６）生活支援の担い手育成及び支援

①運転ボランティア養成講座

高齢者等の移動を支援しました。

	年月日	会場	参加者数
1	6.6.10	パシフィックプラザ	1
成 果	社協だよりにて募集を行い1名の方に参加いただいた。運転ボランティアの必要性やボランティアの魅力について理解を深めていただくことができた。		
課 題	養成講座という形ではなく地域での声かけや広報誌を活用した形での募集を行っていく。		

②男性の居場所づくり講座の開催

高齢者の生活力を高める講座を開催しました。

	年月日	会場	参加者数	内容・講師等
1	6.11.22	パシフィックプラザ	10名	人生を見つめ直す入棺体験 行橋造花店 伏下氏

2	6.12.6	パンジー・フーラサ	10名	終活はじめの一步 行橋造花店 伏下氏
3	6.12.20	パンジー・フーラサ	7名	家計にやさしいエコ講座 地球温暖化防止活動推進センター
4	7.1.24	パンジー・フーラサ	12名	認知症を知る、備える
成 果		各回ともに好評で講師に対しても良い評価をいただくことが出来た。男性のみの講座ということで興味を引く内容での開催が重要であるということが分かった。		
課 題		男性の社会参加を促進するためにフレイル予防の講座などを通して社会参加の重要性を訴えかける必要がある。		

③介護予防ボランティア養成研修

高齢者の介護予防を推進しました。

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.9.19	パンジー・フーラサ	28名	レクリエーション研修会 福岡県レクリエーション協会 緒方氏
成 果		ふれあいいいききサロンのメニューに反映できる内容で、参加した活動者の皆さんからは好評をいただくことができた。	
課 題		参加した方たちによるボランティアグループの立ち上げを念頭に研修を企画する。	

④虹の会活動の支援

有償による支え合い活動の推進支援を行ないました。

取組	定例会への参加、視察研修の支援、個別支援の相談
成果	利用会員の困りごとに対する個別相談やうきは市への視察研修など活動の支援を実施することができた。
課題	協力会員の高齢化が進んでおり、社協だよりによる新規協力会員募集など活動の支援が必要となる。

5. 生活支援サービス等の推進

【会計区分：共同募金配分金サービス区分・元気回復サロンサービス区分

・レストラン夢の木サービス区分】

（１）ハンディキャブ（利用者数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	15	21	15	18	19	15	16	14	14	11	9	20	187
成果	利用者の利用予約全てに対応することができた。												
課題	ボランティアの高齢化もありボランティア獲得に向け社協だよりによる募集を強化する必要がある。												

（２）移動サロン（利用者数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	7	6	4	5	5	7	16	18	31	31	26	29	185
成果	今古賀、向山など試験的、特例的な利用もあり 10 月以降は大幅に利用者が増える結果となった。												
課題	白川地区の利用が少ないため調査を行い運用方法の見直しを検討する。												

（３）元気回復サロン（利用者数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	11	8	6	12	10	12	9	10	11	11	9	11	120
成果	今年度から対象となった介護 0B の方を中心に毎月一定の参加者が参加をした。情報交換やボランティア団体によるレクリエーションやリフレッシュを取り入れた。												
課題	現役介護者からの問い合わせや参加がないこと。												

(4) SOS徘徊ネットワーク

	令和6年度	令和5年度
協力員数	162	216
成 果	SOSの検索依頼が1件あり、メール協力員へメールの送付を行った。	
課 題	メール協力員へメール送付したところ、52名分が送信エラーで戻ってきた。メールが連絡手段の主流ではなくなっている今、実施主体である役場の公式ラインの活用を検討しても良いと感じる。	

(5) 配食サービス

		令和6年度	令和5年度
配食弁当 (町委託)	食数	10,614 食	10,025 食
	利用者数	100 人	89 人
ふれあい弁当 (社協)	食数	2,765 食	3,430 食
	利用者数	16 人	28 人
成 果	サンワシステムサービスに製造委託となったので物価上昇による影響を受けず安定した事業運営が来ている。		
課 題	ゆうちょ銀行しか口座を持っていない利用者も多く、現金回収を職員が行っているため、新たにゆうちょ銀行から口座引き落としができる方法の検討。		

4 福祉教育の推進

1.福祉教育の推進【会計区分：法人運営サービス区分】

(1) 地域福祉セミナーの開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.6.25	中央公民館 大ホール	139 名	能登半島地震から学ぶ 今、私たちに必要なこと 講師：特定非営利活動法人 にいがた災害ボランティアネットワーク 李 仁鉄 氏
成 果	能登半島地震から約半年の時期に開催。多くの方が災害に対する危機感と災害時でも自分にも何かできるという気持ちになったのではないかと感じる。大きな災害を経験していない荏田町民にとっては、災害に対する意識を高めるきっかけになった。中でも、支援を拒む被災者心理の話と受援力の話が心に残ったという声が多かった。		
課 題	開催日が他の団体の行事と重なっていたので、日程調整に気を付ける。		

(2) 福祉入門教室の開催

【※1 7月開催分は、ボランティアグループを紹介する講座に掲載】

【※2 12月開催分は、eスポーツによる多世代交流に掲載】

(3) 手話奉仕員養成講座

取 組	10月から入門講座を開講した。14名の申込みがあり7名が次年度の基礎講座を継続受講となった。
成 果	カリキュラムの大幅変更により受講生の減少が危ぶまれたが熱心な受講生たちも出てきた。
課 題	長期の講座になるため受講できる方が限定される。

(4) スポーツレクリエーション祭の開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.12.7	荻田町総合体育館	129名	・6つの競技を楽しもう ・玉入れ
成 果	5年ぶりに開催することができ、多くの方々の参加とボランティアに携わっていただいた。		
課 題	久しぶりの開催で、運営やボランティアがどのように動いて良いか分からない場面があった。		

(5) 社会福祉大会の開催

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.11.13	中央公民館	173名	第1部：表彰 第2部：記念講演 福岡市社会福祉協議会 終活サポートセンター 所長 吉田時成 氏 ・テーマ「暮らしの中で考える終活～これからの人生をよりよく生きるために～」
成 果	多くの方に参加していただいたことで社協の事業や地域福祉の推進につながるきっかけにできる。		
課 題	記念講演では福岡市社会福祉協議会の吉田様を講師に「終活」をテーマにお話していただく。内容がデリケートな部分ということもあり刺さる方とそうでない方が分散した印象を受ける。		

(6) 認知症サポーター養成講座の開催

	年月日	相手先	参加者数	内容
1	※短時間での講座ニーズが高く、依頼がないため未実施			

(7) 出前講座の推進（※小地域福祉活動以外での講座）

	年月日	相手先	参加者数	内容
1	6.4.25	民協老人福祉部会	15名	介護保険制度について
2	6.5.14	南原小学校区 つながり隊	25名	支え合いと人とのつながりについて
3	6.7.23	民協定例会	50名	災害支援について
4	6.11.6	長畑区	25名	・支え合いと人とのつながりについて ・レクリエーション講座
5	6.11.27	民協老人福祉部会	16名	ひきこもり支援について
6	6.12.20	民協心身障がい者部会	10名	「きょうだい」の心の声と思い

2. 子どもの福祉の推進

【会計区分：共同募金配分金サービス区分・法人運営サービス区分】

(1) 福祉教育推進校活動の充実

【苅田小学校】

取組内容	7月4日(木)2時間目 車いすユーザー益戸裕文氏講話 3～5時間目 車いす体験
	7月9日(火)2時間目 盲導犬ユーザー新垣栄子氏講話 3～5時間目 アイマスク体験
成果	7月11日(木)3時間目 ユニバーサルデザインについて竜口会長講話 9月24日(火)3時間目 高齢者について講話 認知症推進員
	講話と体験を同一の日に設定したため、ゲストティーチャーからの講話をイメージしながら体験を行うことができた。
課題	人数が多く1日を通しての実施となるため、学校とゲストティーチャー、職員、他の学校と希望時期が重なる場合の調整が必要。

【馬場小学校】

取組内容	10月21日(月) 2時間目 盲導犬ユーザー新垣栄子氏講話 3～4時間目 アイマスク体験
	10月28日(月) 2時間目 車いすユーザー益戸裕文氏講話 3～4時間目 車いす体験
成果	車いす体験時はゲストティーチャーが同席していたため、体験後にゲストティーチャーの車いす操作も実際に見ることができた。
課題	講話と体験が続けて開催と場合の講師送迎等の職員の手配。

【南原小学校】

取 組 内 容	7月3日(水) 2時間目	盲導犬ユーザー新垣栄子氏講話
	3～4時間目	アイマスク体験
	7月5日(水) 2時間目	車いすユーザー益戸裕文氏講話
	3～4時間目	車いす体験
	7月10日(水) 3時間目	ユニバーサルデザイン 竜口会長講話
成 果	ゲストティーチャーからの講話と体験を行った後にユニバーサルデザインについての話を聞いたため、みんなにやさしいまちづくりについてのイメージを持つことができたと感じる。	
課 題	講話の後にすぐ体験学習を行うため、講話を踏まえて体験時に大切にすることをわかりやすく伝える必要がある。	

【与原小学校】

取 組 内 容	6月18日(火)5時間目	盲導犬ユーザー新垣栄子氏講話
	6月19日(水)5時間目	車いすユーザー益戸裕文氏講話
	6月25日(火)6時間目	高齢者について講話 在処職員
	6月26日(水)2～5時間目	アイマスク体験
	6月27日(木)2～5時間目	車いす体験
成 果	高齢者（認知症）についての講話を寸劇を交えて行うことで、認知症に対する理解を深めることが出来た。	
課 題	人数が多く1日を通しての実施となるため、学校とゲストティーチャー、職員、他の学校と希望時期が重なる場合の調整が必要。	

【片島小学校】

取 組 内 容	2月12日 2時間目	高齢者について講話、体験 社協職員
	(水) 3～4時間目	手話について 手話べり部、手話の会
成 果	年を重ねるということを、講話と体験を通して自分事として捉えることができた。 手話についてろう者の当事者から学ぶ貴重な機会となった。	
課 題	当初予定していた開催日が大雪のため延期になった。開催時期の検討や延期時の日程候補等をあらかじめ想定して話しておく。	

【白川小学校】

取 組 内 容	11月18日(月)2時間目 車いすユーザー益戸氏講話、車いす体験 11月27日(水)3～4時間目 手話について 12月4日(水)2時間目 盲導犬ユーザー新垣氏講話、アイマスク体験
成 果	クラス的人数が少なかったため、学校からの要望により、講話と体験をセットで1時間で実施した。 その分3つのテーマで時間を使うことができた。
課 題	学校の要望に応じたプログラムの変更、作成。

【荏田中学校】

取 組 内 容	依頼がなく未実施。
成 果	3月開催の福祉教育推進校連絡会では実施可能な講演会一覧を希望されたため、作成し配布した。
課 題	学校へのアプローチ

【新津中学校】

取 組	11月25日(月)5～6時間目 防災教育講演会 九州防災パートナーズ 代表 藤澤健児氏
成 果	2クラスずつの実施となったが、実際に講師が持参した非常用持ち出し袋を持ってみたり、非常用持ち出し品に触れてみる体験ができた。
課 題	実施時間、実施形態について学校の希望と講師や社協ができる実施可能な内容についてのすり合わせ、学習の目的共有が必要。

【荏田工業高等学校】

取 組	10月30日(水)4時間目 SDG'sについて 生き方のデザイン研究所 代表 遠山晶子氏
成 果	全校生徒対象の講演会。SDG'sについてや、障害がある方への配慮についてわかりやすく学ぶことができた。
課 題	学校と講師との間に入った連絡調整。

(2) eスポーツによる多世代交流の推進【※2福祉入門教室】

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
6.12.15	西日本工業大学おばせキャンパス	56名	eスポーツ（太鼓の達人、ぷよぷよ e スポーツ、ソニックスーパースターズ）等を活用した多世代交流会を開催
成 果	8歳から86歳まで幅広い方に参加していただき、eスポーツという共通のテーマで楽しんでもいただくことができた。eスポーツを自分たちの行政区でも拡げていきたいなど、前向きな発言もあり、eスポーツの周知や多世代交流の機会にできた。		
課 題	多人数での実施が難しい内容であった為、小学校区毎等、エリアを絞って開催することも一考できる。		

(3) ひきこもり・不登校当事者への支援

取 組	5月 松山区にある畑で芋の苗植えを10名（当事者4名・関係者6名）で行った。 10月 松山区にある畑で芋の収穫を10名（当事者6名・関係者4名）で行った。 10月～ ひきこもり・不登校当事者の居場所「ふらっとゲーミング会」を隔週で開催（全12回・延べ61名参加）。 3月 e-スポーツ・ボードゲーム等で当事者同士の交流や社会とのつながりづくりを図っている。 3月 不登校・行きしぶり当事者の家族のためのおはなし会を開催（3名参加）
成 果	グリーンコープの就労支援事業・ひきこもり支援センター等の専門機関と連携・情報共有しながら開催することができた。畑づくりに参加した当事者が「ふらっとゲーミング会」にも参加し、継続的なつながりを維持できている。 3月のおはなし会では、当事者家族ならではの悩みや思いを共有できる場となった。
課 題	参加者が全員男性のため、女性の当事者の居場所づくりを検討していく。

(4) 子ども食堂への支援

取 組	社協だより 5 月号と 1 月号で特集として掲載した。実施日については毎月社協だよりのお知らせ欄に掲載した。
成 果	特集を組んだことで子ども食堂を手伝うボランティアが 3 名子ども食堂に参加した。
課 題	小学校や中学校への案内の配布等幅広く子ども食堂を周知する支援。

3. 広報・啓発活動【会計区分：法人運営サービス区分】

(1) 社協だより手をつなごうの発行

取 組	毎月 25 日に 11,700 部発行した。
成 果	文字が大きく見やすくなったとの声が届いた。
課 題	校正の確認作業。

(2) HP や SNS での情報発信や公式 LINE 導入へ向けた研究

取 組	担当者が明確でなく、情報発信が不十分に終わる
成 果	散発的ではあるが、職員の情報発信への意識は一定向上。
課 題	情報発信ルールの明確化を図る。ラインは費用面から困難。

(3) アウトリーチによる広報活動

取 組	何の情報を発信するのか不明確で取組進まず。
成 果	アウトリーチすることの大切さは共有できた。
課 題	情報からの孤立を無くす取組を推進したいが、やるべきことが定まらなかった。検討を重ねていく。

5 コロナ特例貸付を通じた生活困窮者に対する支援

1. 生活困窮状態が続いている世帯への相談支援業務の推進

【会計区分：生活福祉資金貸付サービス区分】

(1) 借受人の生活実態の把握のため、アンケート調査を実施しました。

取 組	毎年同じ時期に特例貸付の借受人の生活実態を把握するため、アンケート形式の調査を実施する。回答率を上げるため、アンケート回答者には食料品の提供をする。
成 果	特例貸付の借受人世帯への継続的な支援として、499 世帯へライスパントリーの案内を送付した。R6.9.13 の当日受渡しは 25 名で、個別相談の希望者には相談スペースを設け、家計相談につなぐ等対応した。
課 題	アンケート発送により、借受人世帯の町外への転出世帯数が把握できる。派遣労働など、雇用形態がさまざまであり、相談支援の継続性は難しい。

(2) フードパントリーを実施しました。

実施月日	8 月	1 2 月	3 月
参加人数	28	38	30
成 果	社会福祉法人でのフードドライブや住民からの寄贈品を活用し、フードパントリーを開催した。価格高騰が続いているため、米の配布は大変喜ばれた。コロナ禍から始まった取り組みも 4 年目となり、食料品等の寄贈が増え、食べものを介した支援の輪が徐々に広がっていると感じる。		
課 題	価格高騰から米の寄付が減少している。		

(3) 生活福祉資金の貸付相談を行いました。

	令和 6 年度	令和 5 年度
申請件数	31	23
承認件数	29	19
成 果	必要に応じて県社協や困りごと相談室、役場と情報共有を行いながら、必要に応じて相談や申請等行っている。	
課 題	コロナ特例貸付から簡単に貸付できると認識されている方が多く、貸付を受けたいために大声を出す方もおり、相談時の対応について検討が必要。	

(4) 緊急時の食糧支援を行いました。

	令和6年度	令和5年度
支援人数	45	35
支援延件数	63	51
成 果	食糧支援が必要な理由を確認しつつ、対応。状況に応じて本人の為になる情報や提案を行う等食糧支援のみにとどまらず困窮相談として対応している。	
課 題	生活保護世帯の食料支援の依頼が多い。また、2回以上支援が必要な方もおり、寄付だけでは間に合わず、購入して支援しなければならない状況である。	

(5) ふくおかライフレスキュー事業を活用しました。

取 組	該当者はない。
課 題	相談時、生活再建できるような状況になく、生活保護の適用が優先されるケースが多い。

6 頻発・激甚化する災害への対応

1. 災害ボランティアに関する研修会の開催

※ **4 福祉教育の推進** (1) 地域福祉セミナーの開催に記載

2. 災害ボランティア登録制度の実施

取 組	地域福祉セミナー（6/25 実施）参加者に対し、災害ボランティア登録制度の投げかけを行った。
成 果	9名の登録があった。10月に行われた、災害ボランティア運営訓練（県社協主催）の案内を行い、3名が参加した。
課 題	登録だけに終わらず、研修会の案内等を積極的に行っていく。

3. 災害ボランティアセンター設置運営マニュアルの改訂

取 組	新型コロナウイルス感染症等に対応した I C T を取り入れた設置運営マニュアルを改訂中。
成 果	県社協災害福祉センターとの情報交換会を通じて、マニュアルに入れるべき要素等、把握することができた。
課 題	マニュアルだけでなく、発災時に活用できる連絡・連携リストを作成する必要がある。

4. 災害時相互協定の締結

(1) 企業・団体との災害時相互協定の締結

取 組	荏田町役場危機管理室と災害ボランティアセンター運営協定についての協議や災害時の役割整理等の情報交換を行った。
成 果	災害ボランティアセンターの設置場所やお互いの役割の整理等、協定の改訂に向けた協議ができた。
課 題	協定の改訂が必要となる。

(2) 災害時相互協定についての内部研修や情報交換会の実施

取 組	災害時相互協定や災害ボランティアの運営について、県社協災害福祉センターと情報交換会を行った。
成 果	協定は企業側の負担が重く、締結が難しいことが分かった。
課 題	協定の締結の前に、企業との連携・協力が重要となるため、災害以外で、連携・協力できる場面を作っていく必要がある。

7 組織体制の強化・財政規模の拡大

1. 組織体制の強化(総務係)

(1) 理事会の開催

年月日	出席者数	主な議題
6.6.3	理事 12 名・監事 2 名	事業報告・決算報告
6.9.27	理事 11 名・監事 2 名	くすの木作業所の出向契約書の締結
6.12.23	理事 10 名・監事 2 名	評議員選任・解任委員の選出
7.3.14	理事 11 名・監事 2 名	事業計画(案)・収支予算(案)

(2) 評議員会の開催

年月日	出席者数	主な議題
6.6.24	評議員 15 名・監事 2 名	事業報告・決算報告
7.3.25	評議員 10 名・監事 2 名	事業計画(案)・収支予算(案)

(3) 委員会活動の推進

① 財政基盤強化委員会

年月日	出席者数	主な議題
6.7.22	委員 4 名	社協会費実績報告及び今年度の取組検討
7.2.12	委員 2 名	社協会員新規開拓の状況・収益事業について

② 社協のあり方検討委員会

年月日	出席者数	主な議題
未開催		特に議題なく未開催

③ 成年後見等運営委員会

※ 2 地域における総合的な権利擁護支援体制の整備に掲載

④ 社会福祉大会実行委員会

※ 4 福祉教育の推進に掲載

(4) 地域福祉活動計画・事業計画の理解による目標の共有

事業計画の進捗確認を業務推進会議にて毎月行った。

(5) 職場の心理的安全性の向上

週報やミーティングを通じ、伝えあえる環境づくりに努めた。

(6) 人権学習の開催による職員の人権感覚の醸成

年月日	会場	参加者数	内容・講師等
7.1.17	パシフィックプラザ 大研修室	50名	苅田町 住民課 人権男女共同参画室 人権啓発推進指導員 高須雅光 様
成 果	高須指導員による人権講話（人権3法について）を講演していただく。非常に分かりやすく、自分たちが特定職業従事者である実感を改めて得る機会にできた。		
課 題	テーマが多様である為、時間の設定や内容に於いて、事前の打ち合わせをより設ける必要がある。		

(7) 職場内会議や研修の充実及び効率化

取 組	①各係で会議（週1回） ②業務連絡会議（月1回） ③各係で月間活動計画の作成・報告（月1回） ④地域支援検討会議（隔月） ⑤業務推進会議（隔月）
成 果	定例での会議でコミュニケーションが深まり、報告や相談等を気軽に言い合える関係が一定できるようになった。
課 題	職場内研修の構築が課題。

(8) 資金管理（会計）の効率化

取 組	会計入力および確認ができるパソコンを1台から3台に増やした。
成 果	同時に会計入力等ができるため、効率よく仕事を進めることができた。
課 題	効率の良い会計処理や伝票確認の方法を担当者間で共有する。

(9) 残業の削減による生産性の向上

取 組	時間内に集中して業務を行うように心がけた。
成 果	残業数は減少した。
課 題	継続して実施していく。

(10) 経費節減・削減の徹底

取組	絵入り年賀はがきが 68 円から 90 円に値上がりし、他社協や企業、施設等も廃止をしていることを考慮し、年賀状終いの挨拶をした。
成果	来年度は 90 円×500 枚の 45,000 円程度の年賀状代の経費が削減できる。
課題	新たな経費削減方法を見つける。

(11) ペーパーレス化による業務効率化の研究及び電子帳簿保存法の研究

取組	年間 6,000 枚以上印刷する必要があった振替伝票を、300 枚の印刷で済む様式に変更した。
成果	大幅なコピー用紙とインクの消費量を削減できた。
課題	電子帳簿保存法についての理解。

2. 財政規模の拡大(総務係)

(1) 社協会員増加に向けた取組み

①個人会員の増加に向けて区へ回覧を行いました。

取組	駐在員会議の時に配布させてもらっている。
成果	大幅な減少はなく安定した個人会員の継続につながっている。
課題	区の加入者減少傾向による個人会員の減少。

②法人・企業・団体会員増加に向けて、新規開拓を行いました。

取組	2 月～3 月に理事と職員がペアで新規企業の開拓を行った。
成果	90 企業訪問中 18 企業が加入してくれた。
課題	新規開拓の訪問時期。共同募金法人廻りとの兼ね合い。

③アピールの強化

		令和6年度	令和5年度
個人会員	口 数	1, 5 9 0口	1, 6 2 6口
団体・企業会員		9 9口	1 0 0口
賛助会員		1 6口	2 5 0口
個人会員	会費額	1, 9 0 8, 0 0 0円	1, 9 6 1, 2 0 0円
団体・企業会員		9 9 0, 0 0 0円	1, 0 0 0, 0 0 0円
賛助会員		1 9, 2 0 0円	3 0 0, 0 0 0円
総 額		2, 9 1 7, 2 0 0円	3, 2 6 1, 2 0 0円
成 果	個人会員と賛助会員は減少したが、企業・団体会員は新規開拓を行ったことにより、大幅な減少を食い止めることができた。		
課 題	個人会員と賛助会員の減少。		

(2) 赤い羽根共同募金運動の推進

		令和6年度	令和5年度
戸別募金		3, 3 3 9, 3 0 0円	3, 4 5 9, 7 0 0円
法人・団体・個人		1, 3 0 7, 2 1 2円	1, 2 6 8, 6 1 4円
街頭募金		7 3, 7 1 7円	2 8, 3 2 4円
募金箱(学校含)		2 0 8, 0 9 4円	1 2 3, 5 8 3円
その他の募金		5 4, 9 0 1円	8 9, 8 2 8円
歳末助け合い		6 6 7, 8 1 1円	6 9 6, 1 0 0円
合 計		5, 6 5 1, 0 3 5円	5, 6 6 6, 1 4 9円
成 果	法人・団体・個人募金、街頭募金、募金箱が増えた。		
課 題	募金額が増えた項目もあるが、合計額としては減少した。全国的にも年々募金額は減少してきている。		

①福岡県共同募金会荏田町支会理事会

年月日	出席者数	主な議題
6.6.3	理事 12 名・監事 2 名	事業報告・決算報告
7.3.14	理事 11 名・監事 2 名	事業計画(案)・収支予算(案)

②街頭募金の充実、協力者の拡大

取 組	助成金申請団体にも協力依頼をして、町内スーパー等５ヶ所と役場神幸祭会場で街頭募金を実施することができた。
成 果	ボランティア団体・福祉団体から３８名の協力者を募ることができた。
課 題	QRコードを読み込みペイにより募金に対応するなど、現金を持たない人へのアプローチ。

③振込による募金方法の更なる周知を図ります

取 組	振込期間を昨年度まで２週間であったところを今年度は１ヶ月間期間を取った。
成 果	昨年度の振込による募金額５３４，１００円と比較して今年度は６５３，０００円となり、１１８，９００円の振込額の増加に繋がった。
課 題	継続して余裕を持って案内を行う。

④法人募金、新規事業所の開拓

取 組	未実施
成 果	未実施
課 題	社協会費との兼ね合いを考えると難しい。

⑤配分委員会の開催による適正な配分

取 組	配分委員会の実施はできていない。
成 果	実施はできていないが、助成金申請については、１１月申請、１２月配分委員会、３月報告・請求という流れはできた。次年度以降実施する。
課 題	各福祉団体、ボランティア団体への申請時期変更の周知。

(3) 自主財源の確保

① 葬祭事業仲介手数料

令和6年度	令和5年度
77,517円	415,968円

② 自動販売機設置販売

令和6年度	令和5年度
541,406円	465,968円

③ 郵便物販売手数料

令和6年度	令和5年度
50,667円	57,406円

④ バザー品の販売

令和6年度	令和5年度
73,821円	49,000円

⑤ カレンダーバザーの実施

令和6年度	令和5年度
54,888	40,480円

⑥ 使用済み切手販売手数料

令和6年度	令和5年度
800円	1,232円

⑦ 自主財源拡大検討

取組	10月13日(日)、中央公民館にてチャリティ演芸会を収益事業として開催した。
成果	200,587円の寄付額をあげることができた。
課題	出勤する職員数を再検討するなど効率の良い開催の検討。

8 ケアプランサービス

1. 自立支援を目的に適切なケアプランを作成します

要介護状態となった場合においても、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、その人らしく自立した日常生活を営むことが出来るよう、ケアプランの作成に努めました。

取 組	本人・家族の生活に対する意向を踏まえた上で、専門職として課題分析の結果を踏まえ、自立した生活が実現できるよう、本人・家族に提案し、総合的な援助の方針を決定し、ケアプランが生活の質の向上につながるよう支援に努めた。
成 果	要介護者の持つ力を活用することで、介護者の負担軽減にもつながり在宅、生活の限界点を引き上げる事が出来た。
課 題	認知症を患う独居高齢者の在宅生活の継続

2. 特定事業所加算算定事業所としての役割を遂行します

研修会への参加の機会を確保するとともに、他事業所と共同による事例検討会の開催を企画・運営し、当事業所および地域のケアマネジャーの資質向上に努めます。また、町内他事業所の主任介護支援専門員との連携を図り、地域の介護支援専門員の抱える課題・地域課題に対してパイザ一的機能を担えるよう努めました。

取 組	内部・外部研修に参加し、知識を深めるとともに、特定事業所加算を算定する事業所として、地域支援検討会議の開催や苅田町主任介護支援専門員部会へ参加し、地域のケアマネジメント力向上に努めた。
成 果	特定事業所加算算定事業所の介護支援専門員としての意識の向上が図れ、特定事業所としての役割を遂行できた。
課 題	研修内容の拡大

3. 虐待の早期発見・早期対応に努めます

虐待が疑われる事例が発生した際は、早期に保険者へ報告し、情報の共有を図ります。虐待防止委員会の開催や研修への参加を通じ、虐待への認識を深め、虐待の防止に努めました。

取 組	虐待対応の研修を受け、マニュアルに添った対応を心掛け、虐待の早期発見・早期対応に努めた。
成 果	虐待の状況が悪化することなく、在宅生活を継続できた。
課 題	高齢および一人で介護している介護者の増加

4. 災害・感染症発生時も業務を継続します

災害・感染症発生時においても、可能な限り業務を継続できるよう努めます。クラウド式ソフトおよび ZOOM 等の ICT を活用し、災害・感染症発生時も途切れることなく、関係機関と連携し支援に努めました。

取 組	可能な限り業務を継続できるよう、業務継続計画を作成し、定期的に委員会を開催し、内容の確認・見直しの必要性を検討した。
成 果	クラウド式ソフトを使用することで、事務所が被災した際の体制が整った
課 題	個別避難計画の作成

5. 地域への広報活動・介護保険の理解促進に努めます

介護保険相談窓口であることを掲載し相談しやすい環境づくりに努めました。

取 組	ホームページや手をつなごうへの掲載を継続した。
成 果	窓口相談を受ける機会が増えた。
課 題	介護保険制度の理解促進が不十分

9 認知症対応型デイサービス 在処よってけばあ

1. 職員の専門性と資質の向上

認知症の進行に伴う不安や苦痛を受けとめ気持ちに寄り添う介護、認知症の人の持つ力、できない事でなく、できる力に目を向けられるように専門職として自己研鑽に励むと共に、研修への参加や資格取得を奨励し資質や技術の向上を図りました。

取 組	県社協研修や内部研修の実施、職員会議で困難事例の検討
成 果	研修報告を通して内容の検討・意見交換ができた
課 題	全員で参加できる内部研修の充実

2. 地域との交流の促進

地域と安心して交流できる機会を作るように努めました。

取 組	ボランティアとの交流・季節行事に地域の方々に案内参加を集う
成 果	利用者もボランティアと顔馴染みにあり交流が図れた
課 題	地域の方が参加しやすい行事の企画

3. 家族介護支援の強化

家族が介護について一人で抱え込まない様に、認知症についての理解や対応の仕方、問題点などについて話しやすい場を提供していきました。

取 組	連絡帳・送迎時に声かけ、話を聞く。ケアマネを通して家族の介護困難等の情報交換、事例の検討
成 果	家族の不安や心配事が把握でき、適切な助言で介護負担の軽減につながった
課 題	利用者家族が気軽に来所でき相談を行える場所作り

4. 情報発信

日々の様子やイベント情報、また認知症に関する知識や介護情報などを掲載し在処の理解を広げました。

取 組	在処だより・広報誌や居宅事業所に利用時・行事等様子を発信
成 果	利用者のデイでの活動等が伝えられた
課 題	外部に多く発信したい

10 多機能型事業所くすの木作業所

1. くすの木作業所の事業譲渡の円滑な推進

令和7年3月31日をもって「多機能型事業所くすの木作業所」は閉鎖しました。事業譲渡による利用者・家族、スタッフへの不安や混乱が懸念されましたが、利用者やスタッフが今の状況まま新施設に移行できることやスタッフの懸命の努力により、無事大きな混乱なく令和7年4月1日、株式会社おひさまハウス「くすのき」に引き継ぐことが出来ました。

閉鎖日 : 令和7年3月31日

事業譲渡先 : 株式会社おひさまハウス

新施設名称 : くすのき

利用者状況 : 利用者25名（就労継続支援B型17名/生活介護8名）
は全員くすのきの利用者となる。

職員状況 : 職員11名中、10名は株式会社おひさまハウスへ移籍。
1名は自己都合により退職。